

魚津市行財政改革推進委員会 第1回会議 会議録（要旨）

【開催状況】

- 1 開催日時 令和8年7月24日（金）19:00－20:30
- 2 開催場所 魚津市役所2階 第1会議室
- 3 出席者
 - （1） 委員等
布目会長、大野（聡）委員、大崎（浩）委員、清水委員、大崎（雅）委員、鍋島委員、川合委員
 - （2） 市当局
村椿市長、石黒副市長、赤坂総務部長、窪田民生部長、江田産業振興部長、宮崎建設部長、田中教育委員会事務局長、戸田企画広報室長、舘総務部次長、松木財政課長、（上下水道課、事務局）

【関連資料】

○資料

- （1） 魚津市行財政改革集中プランの進捗状況について
資料1 魚津市行財政改革集中プランの進捗状況
【参考資料】集中プラン項目進行管理表
- （2） 魚津市公共施設再編の状況について
資料2 魚津市公共施設再編方針の進捗状況
- （3） 公共施設使用料の見直しについて
資料3 公共施設使用料見直しについて
【別紙】 公共施設使用料改定（案）一覧
- （4） 魚津市上水道事業の現況と経営改善の方向性について
資料4 魚津市上水道事業の現況と経営改善の方向性

【会議内容】

- 1 開会
- 2 市長挨拶

（挨拶要旨）

皆様、本当に何かとお忙しい中、本日の会議にご出席いただきましてありがとうございます。

魚津市では、様々な課題を抱えながら、複雑化、多様化する市民サービスに応える

ため、行財政改革の取組を行っております。

本日の会合では、大きく4つのお話があります。

1点目は、令和7年度における行財政改革の取組状況について、ご説明します。

2点目に、公共施設の再編方針に沿った取組の進捗状況についてご報告をさせていただきます。

3点目は、これが本日の中心議題になると思いますが、昨年度から検討を進めております、公共施設の使用料の見直しの件です。この件につきましては、先般、市民説明会を行いまして、様々なご意見をいただきました。また、パブリックコメントも行いまして、そうしたご意見を踏まえた対応案について、ご説明をし、議論できればと思っています。

加えて、4点目として、魚津市の水道事業について、現在の経営状況と今抱えている課題について、ご説明します。今のまま行くと、早晚、水道料金の引き上げをテーマに議論をしなければならないような状況にもあります。そういった点についても、ご説明します。

課題がいろいろございますが、委員の皆様方から、忌憚のないご意見をいただいて、また我々も、取組を進めていければというふうに思っています。簡単ですけども開会のご挨拶にかえさせていただきます。本日はよろしくお願いします。

3 議題

【以下、質疑、意見等】

(1) 魚津市行財政改革集中プランの進捗状況について

(2) 魚津市公共施設再編の状況について

会長 資料1を見ると、計画値と実績値が大きく異なる項目、例えば集中プランN01の指標「窓口での待ち時間の削減時間」で、80時間を計画していたところ、400時間の削減実績であったとあります。こうした実績値が計画値よりかなり高く出る項目において、令和8年度以降の計画値に適時反映させていくのか、どのように考えていますか。

当局 ご指摘のとおり、計画値を目標にしましたが、実績を見ると計画値とのズレが出てきている項目が幾つか見受けられます。目標よりも、実績値が多くなってるものもあれば、極端に少ない、例えばCの評価になるものもあります。こうしたものは、今後、計画値が適切であるか見直しが必要になってくるものと認識しております。

会長 5か年計画の初年度ということで、適時計画値の妥当性を確認することで、徐々に精度が高まっていくのかなと思います。私としては、滑り出しとしては、まあまあの取組結果であると思います。

委員 働き方改革の推進という項目の指標を見ると、残業時間が非常に多いなと思います。

うちのコミュニティセンターでは、働き方改革ということで、昼の12時から1時までの電話対応と窓口対応を止めました。残業は、とにかくゼロでいこう、職員にも残業せず定時に帰るよう促しています。夜の会合があるときは、交代交代で平日の昼間、休むという形で対応しています。市の職員の残業時間も、そうした工夫で少しでも減らせないものかなと思います。それと人口減少が進んでいくので、行政コストは基本的に落としていかなければいけないし、生活環境を維持していくためにも、よりコンパクトに都市の中心部に住まなければならないと思います。今後、財政も一緒に考えながら、持続可能なマスタープランを作っていかなければいけないなと思います。立地適正化計画についても、果たしてそれを遵守されてるのかどうか確認したいです。

当局 まず、残業時間のについては、災害や選挙などの特殊要因を除いた時間を集計したものとなりますが、過去の推移として、令和元年は2万5289時間であったところ、令和2年度と令和3年度のコロナ禍で凡そ1万7000時間から1万8000時間に減少、その後令和4年度に2万6956時間、令和5年度以降、働き方改革の推進やリモートワークの導入により、2万1000時間から2万2000時間に減少しています。今後も、委員のご指摘にあったように、働き方を見直すためにデジタル技術の積極的な活用などに努めてまいります。また、立地適正化につきましては、今後人口が減少していく中で、非常に大事なことだと思ってます。交通の維持の問題や高齢者の買い物問題など、切実な問題と認識しております。そういった課題を踏まえ、DXの推進により中心部から離れた集落でも生活できる環境の整備、或いは買い物や通院のできる範囲への誘導などに目を向けていかなければならないと考えております。

(3) 公共施設使用料の見直しについて

委員 コミュニティセンターの体育館を利用するんですけど、概ね私の周りでも値上げは仕方ないかなという雰囲気にはなってきています。一方で、400円から700円の値上げについては、「サークルの会費を上げざるを得ない」「健康のためにやっているけれど、別に上位の大会目指してるわけじゃないからやめちゃうかな」という意見も、どうしてもあります。ただやっぱり、その値上げするだけでなく、しっかりと改修や維持に努めていただきたいと思います。また、水族館と埋没林博物館の見直しについては、自分たちが別の町の観光地に行っても、よく共通券が販売されているのを見て、どうしようか迷うんですけど、それが無くなっても、半券を持って割引制度というのは、いい案だと思います。

委員 私自身はあまり公共施設を利用する機会がないのですが、水族館は、県外からお客様がお出でになったときにご案内すると、大変好評です。特に、外にいるペンギン、ア

ザラシが料金を払わないで見れるというのはすごいと、非常に驚いて帰られます。これを維持している魚津市ってすごいですねとお褒めになったり、感動して帰られることが、ございます。ですので、結構サプライズ的にご案内すると、本当に好評なんですね。埋没林博物館もそうですが、影の非常に誠実で地道な努力のもとに、そういう施設が成り立っているということは、非常に大切な文化ですし、ぜひこれを年間パスポートの促進により市民の方、特にこれからの市政や生活を支えていく、次世代の子供たちにも伝承していけるように願います。

委員 しばらく前に、市内の小中学生を対象に無料パスポートの配布をいただきました。そういうものをただ配るだけじゃなくて、我々教員も、どういう意味があるのかを意識して配布するように、と私の職場では行っておりました。そういったことをまた、校長会等でも共有し、これが年間パスポートの取得に繋がっていけばいいなと思います。実際子どもたちも、水族館へ行っているとも聞いていますので、地域の貴重な教育資源を子どもたちが有効に活用できるように、学校現場でも認識していきたいと思います。コミュニティセンター体育館の、地域のサークル活動等が当該地域にある体育館を利用する場合5割減免については、素晴らしいアイデアだと思います。

会長 資料3の別紙4ページについて、基本的に現行と改定後の金額が変わらないものは、右側の欄で、コメントしてあると思いますが、このページのランニングコースだけがコメントがありません。もし可能でしたら少し説明を追記していただきたいと思います。

委員 資料3のパブリックコメントの主な意見で、コミュニティセンターについて地域のサークル活動は有料利用とありますが、基本的にコミュニティセンターは地域の方々から別にお金をいただいて運営しているものですから、サークル活動は減免となるんですよね。ですので、コミュニティセンター体育館としていただければ誤解が無いと思います。

当局 サークル活動の利用については、ご指摘のとおり体育館を除き減免により無料となります。記載されているものは、パブリックコメントで寄せられたご意見をそのまま掲載していますので、このような表記になっております。意見を寄せられた方は、その辺をあまり認識されてなかったのかなとは思いますが、市の見解で補足を加えるなどして誤解の無いようにしたいと思います。

委員 行政職員だけで全ての地域課題に対応するとは、難しい。例えば、災害時の対応について、平素より有事のときの備えについて市民の方々と具体的に話し合える場を持つとか、福祉的な部分に特化したことは福祉事業所に繋ぐとか、あらかじめ話し合いで手順を決めておくと、他律的業務の時間外勤務の削減にも繋がるのではないかと思う。

(4) 魚津市上水道事業の現況と経営改善の方向性について

会長 資料4の20ページに有収率の向上ということで、いろいろと書いてあるのですが、有収率がここまで低い原因について、心当たりはあるのでしょうか。それともなかなか特定しがたい状況にあるということなののでしょうか。

当局 有収率が悪化している原因については、現在、不明です。ただ、全国的に悪化する要因の1つとして、漏水が一番大きいというところがありますので、その対策もしっかりしていくところですが、他自治体の状況見ますと、漏水箇所を直すよりも老朽管そのものを直したほうが、一番の漏水対策になるという事もありますので、管の更新を中心にやっていきたいと考えておるところです。他市町村では、いろいろな手を尽くしても有収率が上がらないというところもあります。原因がなかなかわからない中で、どうすればいいか検討しながら、長期的対策、短期的対策をそれぞれ考えながら、できることをしっかりとやっていきたいと思っております。

会長 資料4の8ページで浄水施設の耐震割合が0%となっています。理由として横枕浄水場の工事が計画より遅れているという説明がありましたが、それは例えば物価高騰によって施工業者が決まらなかったとか、何か理由があったのですか。

当局 資金面の問題があります。魚津市水道事業新水道ビジョンの中では、一昨年から施工する計画でしたが、一方で、基幹管路の耐震化率を40%にするという目標もあり、その工事の進捗を優先し資金を工面していたということが1つあります。国の方でも、基幹管路と浄水場・配水場については、なくてはならない急所施設という位置付けになっていますので、来年から取り組めるように準備しています。

会長 資料4の15ページに資本的収支の見込が示されていまして、建設改良費が令和9年度に急激に上昇する見込みとなっています。これに、横枕浄配水場の更新工事も含まれているということですが、建設改良費が見込みより高騰する可能性もあるということですか。

当局 先ほどもご説明しましたが、横枕浄水場の更新、基幹管路の耐震化の計画をしていますが、一方で、老朽管の更新など有収率を上げる対策も必要で、その両方に取り組むためには、多額の資金が必要です。有収率が低いということは、無駄な電気、薬品を使用しているということですので、コスト削減のためにも資金面を工面しながら、有収率向上のための対策にも取り組みたいと考えております。

委員 水道の経営状況に関してはもう、一言で言えば、どうしようもないからやっていかなければならない、ということだと思いますが、その前に資料について、皆さんがこの説明で理解できるのか疑問です。専門用語がたくさん出てきますが、補足説明がついてるものについていないものがあり、補足があるものはその記載箇所を、丁寧に説明して

いただかないと多分ついていけないという問題が、出てくると思います。水道は、多くの市民が使われているものなので、思いとか興味がすごくあると思われます。全部を説明するような、細かい資料も必要になってくると思いますが、まずは、もう少し大枠の説明で、理解の入口に立っていただくような資料を作ってもらえると良いと思います。例えば、上水道が黒字です、簡易水路が赤字です、とありますが、では魚津市の簡易水道の割合ってどれぐらいなのということが知りたいと想定されます。努力しますと言っても、赤字の原因について、どれぐらいの割合のものをどうすればいいのかという意見が少し出しにくいところもあります。対策については、もうお任せするしかない部分なんですけれども、聞き手の理解を深めるという意味では、もう少し、分かってもらおうというような資料の作り方をしていただけると、ありがたいかなと思います。

委員 丁寧なご説明で、私は一生懸命私なりについてきました。大雑把に言うと、人口が減ることで、収支が合わなくなるということだと捉えています。私は、水道ではなく、井戸水で生活していますが、魚津の水はどこに行ってもおいしいし、自慢の水だと思っていますので、魚津市の水は黒部市より高いと言われているますが、料金を上げることで管理もしっかりしていただいて、直さなきゃいけないところは直していただいて、老朽化も速やかにチェックしていただいた方がいいと思います。

会長 水道事業に一般会計からの繰り入れはあるのでしょうか。

当局 国の示す基準の分、繰入をしています。加えて、一部建設費で、上乘部分の繰入をしています。

会長 つまり税金が投入されているということになります。ですから、水道を使う使わないにかかわらず、深く市民の皆様の利害と関係してるということですね。逆に、水道料金を上げた方が、税金の投入額が減るということに繋がり、水道を使用されない方も納得できる。その辺りの利害に深く関わってくるというところであります。

委員 先日、コミュニティセンターに空き家から水が流れてると連絡がありました。調べてみると、空き家の中の水道管が老朽化して漏水していました。空き家も非常に危険な状況にあるんだなと思ってます。また、自分はかなり水道を使っていますが、水道料金の全国の平均が3,400円ぐらいであることを考えると、少し料金を上げてもいいのかなと思います。別の質問ですが、上水道事業の黒字で簡易水道事業の赤字を補填していると説明がありましたが、簡易水道の水源は地下水とか伏流水とかに依存しているものもあると思うのですが、その比率はどれぐらいでしょうか。あと、簡易水道の経営効率を向上するためにも、例えば、広域の合併をすとか、近隣の市の上水道と併合するとか、そういうことは考えられないのでしょうか。

当局 簡易水道の水源の比率につきましては、今すぐ回答は出来ませんが、他市町村との広域化については、富山県の方で計画があり、魚津市も当然は参加しています。魚津市は、魚津より東側のエリアで統合を検討するという計画になっていますが、それぞれの

市町で異なる料金体系をどうするのかなど、いくつかの課題があり、進んでいない状況です。その中でも、例えば、料金システムについて共同で調達したらコスト削減につながるなど、経営の効率化の観点で必要だと思っております。引き続き、連携してまいります。ちなみに、簡易水道について、例えば、松倉地区にある鉢地区の簡易水道は、簡易水道の計画人口100名に対し、実際の使用世帯は4名と、施設が過大となっているものもあります。そのような簡易水道について、今後、人口の推移を見ながらですが、施設の縮小というものも検討してまいります。

会長 やはり簡易水道のエリアは、山手にあるなど水道とは繋ぎにくいエリアなのでしょうか。

当局 簡易水道のエリアは、山手が多いです。松倉地区、片貝地区、西布施地区にございます。他の地区では、上水道から管を繋ぎにいったものもありますが、管を通すのに結構な延長がありますので、課題になっております。国の方では、小さいエリアについては、給水車による水の配達も1つの選択肢として示されていますが、それが実際どれくらいのマンパワーとコストがかかるのか分かりませんので、今後検討が必要だと思えます。

委員 大体3割未収というのは、普通の企業だと考えられない状況です。

会長 私も仕事上いろいろな自治体を拝見させて頂いていますが、有収率が7割を切るというのは驚きです。これでは、料金改定を議論する前に、まず改修してくださいって言われる可能性が高いですね。ですから、料金上げるときにも上げようとするときにも、そこへの努力をちゃんとやってるっていう姿勢も、アピールしていかなければならない所だと思います。これにつきまして、現況と改善の方向性を示されたわけですが、今後は、どのような形で進めていかれる計画でしょうか。

当局 まだ料金改定をどうするかは決まっていますが、本課題については、引き続きこちらの委員会でもご審議いただきたいと思います。また、簡易水道のエリアについては、現場の方と話しさせていただき、現状を説明していかなければならないと認識しています。まずできることを、しっかりとやっていきたいと考えております。

会長 いつ頃までにという目標はありますか。例えば、令和9年度からとか、10年度からとか。来年度からってことは、当然有り得ない話ですよ。

市長 先ほど、資料4の18ページ純利益の状況ですとか、その前の17ページの料金回収率の見込でご覧いただいたとおり、令和9年度が分岐点となっています。そのまま放置すると、収入で支出を賄えないという状況になりますので、少なくとも令和9年度中には、一定の方向性を出していかないと遅くなってしまうのかなと思っています。そういった意味では、今年度に、まずは、先ほどから議論になってます、有収率について、配った水の3割が、収入に結びついていないという現状を、何とか少しでも改善すると、これがまず一番大事な話になります。そこを徹底的に、今年度、突き詰めていくという

ことをやって、その上で、先ほど説明した赤字にならないうちに、どんな料金設定をしていけばいいのか具体的な検討に入るということになると思っています。

会長 料金つきましては、令和9年度の当初から具体的に検討を始めるということですか。

市長 料金改定そのものは、おそらく令和10年度以降になるとは思いますが、方針はもう令和9年度に決めないと間に合わないのではないかなと思っています。

会長 そのプロセスにおいて、必要に応じてこの会議でご報告いただけるということでございますね。分かりました。

(5) その他

委員 先ほど水族館の話が出ましたが、今年の花見に行ったときに、たくさんの花見客を見て、あの中からどれだけの方が水族館に入館していただけるのかなと思いました。そうした人が多く訪れる時期に、実際にどれだけの入館があったのかということも、すごく大事なデータだと思います。

市長 水族館への入館者は、令和7年度は、令和6年度に比べて16%増えています。料金ベースでいうと20%増えています。富山県が寿司をテーマにしたいろんな取組を行っているので、魚津水族館でも寿司ネタに乗っかる形で、いろんなことを展開して、宣伝をし、それがマスコミなどにも取り上げられていたということもあると思います。今年の入館者数も、昨年度より多いベースで推移しているということなので、我々もいろんな工夫を凝らしてやっていきたいと思いますし、委員ご指摘のように、県や市の他のイベントとの相関関係など分析をし、活かしていければと思います。

以上